



## 《将来に向けた取組方針》

三菱総研グループは、環境方針を策定し、事業活動を通して地球環境への負荷軽減と社会の持続的発展に貢献し、環境に調和した経済社会構築へのリーディング・カンパニーとなることを目指しています。

生物多様性・自然資本への取り組みは、脱炭素・カーボンニュートラルへの取り組みとも親和性が高く、これらの両立を図った最善策を検討する必要があります。三菱総合研究所ではこれを重要なサステナビリティテーマと捉えています。正確で分かりやすい関連情報の発信に努めるとともに、自然に関連した財務情報開示の枠組み構築等を通じて持続可能な社会の実現に一層貢献します。

## 当社環境方針

三菱総研グループは法規制等を遵守し、全従業員参加のもとで継続的改善を図りながら、持続可能な社会づくりへの知的貢献を行います。

### 1. 環境経営の持続的推進

事業活動に伴うエネルギー使用や紙使用、ごみ排出による環境負荷を軽減し、無駄な費用を削減しながら地球環境保全に貢献します。

### 2. 環境事業の多面的展開

持続可能な社会づくりに貢献する製品・サービスを拡充し、事業の拡大を通じて地球環境保全に貢献します。

### 3. 知の提供による環境・社会貢献

地球環境保全に向けて、シンクタンクを中核とするグループ総合力を活かした先進的な環境に関する提言を積極的に発信するとともに、環境に貢献する活動を実践します。

### <具体的取り組み事例：生物多様性・自然資本に関する情報発信>

#### ◆「注目される「自然資本」と金融機関」(2023.11.8)

昨今、「気候変動」に次いで注目される「自然資本」への対応。自然環境は企業活動の基盤であり、さまざまな業種と取引している金融機関にとっても他人ごとではない。金融機関は取引先のマテリアリティを整理したうえで、取引先にとっての自然資本の位置付けを把握することが第一歩。

<https://www.mri.co.jp/knowledge/column/20231108.html>

#### ◆「ネイチャー・ポジティブ」に企業が取り組む意義(2023.11.24)

近年、企業と自然資本の関わりへの注目度、そして情報開示のニーズが高まっている。「ネイチャー・ポジティブ」に取り組むことは、企業のレピュテーションの向上や経営基盤の強化につながる。企業では、自然への依存・影響、そして自然関連の新たな事業リスクと事業機会がないかを見直すことが重要である。

<https://www.mri.co.jp/knowledge/column/20231124.html>

### <具体的取り組み事例：お客様のTNFD対応支援>

三菱総合研究所では、TCFDコンソーシアム事務局の運営、生物多様性/気候変動分野の長年の調査研究実績、企業の経営戦略策定支援の実績等を活かして、お客様の状況を踏まえた最適かつ効率的なTNFD対応をご支援しております。

- ・ TNFD 初期検討、対応高度化
- ・ 生物多様性/調達関連方針の見直し
- ・ 価値創造に向けた開示支援 など

これらの取組を通じてお客様企業のネイチャー・ポジティブ推進をご支援いたします。

<https://www.mri.co.jp/service/esg-and-sustainable-management.html>